

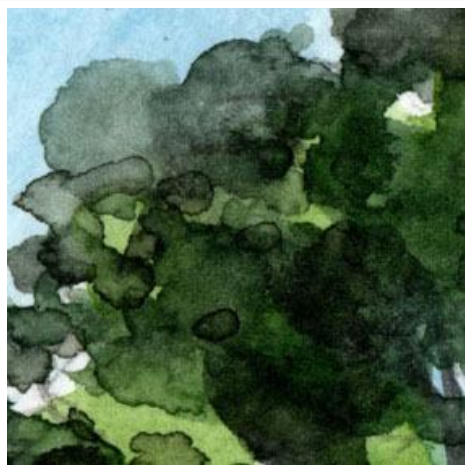
「日々の理科」(第1996号) 2019,12,27
水彩画教室「楠のある家」

お茶の水女子大学附属小学校教諭
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員
田中 千尋 Chihiro Tanaka

街の景観というのは 年月とともに少しずつ変化していきます 見慣れた民家も突然なくなってしまうこともあります 小石川五丁目にあったこの民家も最近更地になってしまいました 立派な楠(クスノキ)がある二階建ての民家で 葉の落ちる春先には 柄の長い竹ぼうきで落ち葉を掃除するのが日常の風景でした きっと美しいマンションが建つのでしょう



これが完成した絵です



1、主題の楠(クスノキ)は 3種類の緑を少しずつ重ねて表現しています



2、幹は左右に濃淡をつけて 立体感を表現しました



3、民家は少し古風なごく普通の二階建てです しかしこういう民家を描くのは実は難しいです



4、カーポートの柵は 絵の題材としてはつまらないものですが、この構図の中では重要な「部品」です



5、電柱も住宅地の表現には重要です 電柱と電線で遠近感を表現できます



6、路面の落ち葉で 晩秋らしい季節感を表現できます